

安心と笑顔のために 日本共産党 さっぽろ市議団ニュース

№. 272 2022年4月 2日 日本共産党札幌市議団 事務局 TEL 211-3221 / fax 218-5124

今冬の大雪で、雪道の転倒件数は例年の1.7倍、病院への救急搬送の遅れや介護事業所の送迎がたどり着けない、灯油やガスの配達やゴミ収集も夜中や翌日以降になり、ストーブの吸排気等が雪で埋まってしまう家もみられました。

担い手支援強化、排雪による道路環境維持が重要

計画的除雪、地元中小除雪業者が望む公共事業で育成を／3月3日予算委(建設)長屋市議

市は「冬のみちづくりプラン2018」に基づいて、徐排雪作業の効率化や省力化、除雪従事者の労働環境改善にむけた除雪機の1人乗り化や車両運転日報の電子化、従事者の定着と育成支援にむけた除雪作業の経験が少ないオペレーターなどを対象にした研修などに取り組んでいます。

長屋いずみ市議は、除雪従事者にもコロナ感染者が広がったことをうけて、「計画的に人を増やす施策が重要」「人づくり、「建設産業にかかわる人づくりを本市あげて進める必要がある」と質問。雪室長は、業界と市が両輪となって、「除雪従事者の魅力向上につながる動画を作成し、幅広く市民に発信」とPRに努めていると答弁しました。答弁を受けて長屋市議は、「除雪で暮らせる雇用として安定した取り組みにすべきだ」とのべ、札幌市建設機械運転免許取得助成制度(取得費用の2分の1を補助/上限4万円、2015年創設で実績は118件)の引き上げる考えがないのかと迫りました。

雪室長は、助成額引き上げは考えていないとの冷たい答弁に、長屋市議は、「助成を増やすことで事業者の負担を軽減し、雇用主が(免許取得の)声をかけやすくなる」と説明しました。

最後に除雪従事者の不足にかかわり、地元建設業者の仕事づくりで「公共事業の落ち込みで、人や機械の維持が困難だと報道がありました。除排雪体制をどう維持するのか」と質問した長屋市議は、排雪による市民が歩きやすい道路環境の維持とそのため体制づくりを求めました。

大雪で都心アクセス道路、トンネル内大渋滞の危険

都心アクセス道路と直結する創成トンネルの換気設備撤去で／3月3日予算委(建設)村上市議

札幌市が22年度予算編成で取り入れた再構築枠、いわゆるリビルド枠のなかに、現創成トンネル(2009年供用開始)やエルムトンネルの換気設備の撤去費用(2億3500万円)が盛り込まれています。当初目的のトンネル内の空気環境が悪化したことによる稼働実績は12年間ありません。一方で、維持管理費は、ジェットファン8台、換気計測装置、換気制御装置の換気設備に導入時・約2億3000万円、定期点検や消耗品交換に約680万円(21年度見込み)、ジェットファンの分解整備費(1台約940万円)の維持管理費がかけられてきたことが、村上市議の質問で判明しました。

村上市議は、創成トンネルとつながる都心アクセス道路(1200億円)について、「換気設備どのように検討されるのか」と質問。国において構造の詳細について検討が進められた後に明確になってくる」と明言を避けたことから、吉岡副市長にたいし、「総延長5キロの都心アクセス道路のトンネル内で大渋滞となれば、当然、換気設備の充実も必要になる可能性がある」「トンネルだとしても出入口では、やはり大渋滞になっています」「アクセス道路は今冬の災害級の大雪でも、機能を発揮するのか、いなか」と畳みかけました。

吉岡副市長は、北陸地方の大雪で大渋滞となった例を紹介。「地下構造でない場合と比べれば、良好なとき、いい環境にあるのかなと考える」と答弁しましたが、「渋滞は除排雪の状況によっては生ずるかもしれない」と、雪害によりトンネル内で身動きができない大渋滞に陥る可能性は否定できませんでした。